史跡探訪感想文

市内―朝見地区

石川　学

平成二十四年八月二十六日（日）、別府史談会主催市内史跡探訪、朝見地区に参加しました。

午前九時、八幡朝見神社駐車場に三十二名が参加しました。

後藤重巳会長から挨拶を受けました。

元別府市水道局長の外山建一さんから朝見浄水場の説明を受け、浄水場を見学しました。浄水場では三重野課長さんからくわしい説明を受けました。

浄水場の入り口にはイタリア式のロマンな建物が目に入りました。建物の中は水道のメーター器とバルブがあり、大正六年三月に建築された、御殿を思わせる立派なものでした。壁面は、こて絵を思わせるようなもので、アーチ形の模様の上にマークをつけたモダンな建物でした。

浄水場は高台の耳鳥山からわき水を利用して別府市民に配水していたが、だんだん人口が増えて市民の七割の人々が水不足になっていました。

昭和二十年の終戦後、アメリカの進駐軍が別府に駐留するようになり、水量も三倍に増えました。

その後、昭和四十二年に第一回の大分国体が開催され、前年には大分県の事業で大分川支流から取水、八キロのトンネルを利用して千五百ＫＷの発電後、朝見浄水場で利用しています。当時、ＪＲ別府駅も高架になりました。

浄水場内の貯水池は一般には見学ができません。安全な水道水を確保して別府市民を守るためです。

浄水場は、昼は七人、夜間は二人が管理しています。

朝見神社では後藤重巳会長と朝見地区の大野洋一さんから説明していただきました。神社は建久七年（一一九六）、豊後大友氏初代能直が鎌倉「鶴岡八幡宮」の御分霊を現乙原に勧請（かんじょう）したことに始まるといわれています。正平三年（一三四八）には鶴見岳の噴火により現在地に移しました。

御祭神は仲哀天皇・仁徳天皇・神功皇后・応神天皇の四神を祀っています。境内には一千年以上も経た楠の御神木が祀られています。参道の階段の上には巨木の夫婦杉があります。男女が二人で通ると縁が結ばれることで人気を受けてい

ます。

また、境内の各所には「萬太郎清水」という親孝行に由来した水がわき出ていて、市民も遠くから水汲みにやってきます。

神社参道

別府村で造り酒屋をしていた荒金煙草屋は萬太郎清水のおかげを受けて商売が繁盛していました。そのお礼に表参道に「ひょうたん石」と「さかづき石」のある石畳を寄贈しました。初詣には、これを踏むと御利益があるといわれ、人気があります。最近、東側には十二支の参道もあります。

参道の南側には朝見病院跡があります。院長は初代大分県立病院長であった鳥潟恒吉先生でした。本家の廻りにはバクチの樹に囲まれています。先生の長男はドイツに留学中、自ら結核を患いながら医学を学び、帰国後、鳥潟結核病院を開業しました。現在、跡地は市営住宅になっています。

朝見の萬年山長松寺の総本山は、越前の永平寺です。永平寺は鎌倉時代に開宗、武士階級の帰依を背景に普及し、越前大仏寺に移り、永平寺としました。

農民の帰依、只ひたすら座禅を組むことで、悟りに至る寺です。

別府の長松寺は以前蓮の田圃の真ん中に建つ、立派なお寺で、農民の修行の場でもありました。

朝見温泉郷

別府一古い温泉跡地が、朝見にはまだ残っています。縦二メートル、横三メートルの長方形だったが昭和初期に温泉が涸れて、その後は洗濯場として小さく改造し、神社から流れる沸き水を利用して使っていました。その小川には澄み切ったきれいな水にニイナや貝類が育って、蛍が飛び交っています。別府でも珍しい風景です。

以上で、別府史談会主催の別府市内、朝見地区探訪が終わり、二の鳥居付近で、御箸のお土産をいただいて解散しました。スタッフの皆さん、大変ありがとうございました。